



大会規則 TOURNAMENT RULES



【大会競技規則】

- ①「2020年公認野球規則」「全日本軟式野球連盟規定学童の部」及び「IBA大会特別規則」を適用する。
- ②大会使用球は「IBA公認C球」とし、バットは「JSBB」マーク入り「全日本軟式野球連盟公認」のものに限る。
- ③ヘルメットは、「JSBB」マーク入りを最低7個用意し、打者、次打者、走者、ベースコーチ(監督・コーチは除く)が使用する事。
- ④捕手は、試合中はもちろんシートノック時も「JSBB」マーク入りのプロテクター・レガース・マスク・ヘルメット及びファールカップを着用する事(控えの捕手も着用を義務付ける)
- ⑤チーム編成
 - ・選手20名以内(0~27 31~99) 監督1名(30) コーチ2名(28 29)
 - ・代表 スコアラー等2名以内
 - ・選抜チーム 合同チームも参加が可能
 - ・保護者2名が健康管理(給水を含む)のためベンチに入ることができる。
- ⑥指導者も選手と同じユニフォームでベンチに入る。
- ⑦参加チームは所属する選手、監督、コーチ、スコアラー、審判のために傷害保険に加入することを義務づける。試合中のプレーに関わる事故やケガは、リーグで加入の傷害保険で対応する。
- ⑧メンバー表は、4部提出する。
- ⑨ベンチは、若番が一塁側で攻守はメンバー表提出時に一塁側が選択権を持つコイントスにより決める。
- ⑩シートノックは、5分間とするがゲームの進行状態等によっては行わない場合がある。
- ⑪ベンチ前でのキャッチボールは禁止する。
- ⑫次打者はネクストバッターサークルでヘルメットを着用して待機する。(素振り禁止)
- ⑬攻守交代時は全力疾走で行う。
- ⑭ラフプレー等、危険を伴うプレーは絶対にしてはならない。
- ⑮ 本塁投手間・塁間・両翼
 - ・本塁投手間16.00 M、塁間 距離:23.00m、本塁2塁間:32.5m、本塁両翼間:60m
- ⑯両翼・中堅を結んで外野のラインが引かれた場合
 - ・打球が直接又はグラブや身体に当たってグラウンドに落下することなくホームランラインを超えた場合はホームランとする。
 - ・その他の打球(ゴロ等)で超えた場合はエンタイトルツーベースとする。
 - ・送球が超えた場合はエンタイトルツーベースとする。

【IBA大会特別規則】

- ①正式試合 試合方法
 - ・6回戦、トーナメント方式。
- ②タイムゲームの採用
 - ・1時間20分を超えて新しいイニングに入らず、均等回の得点をもって勝敗を決する。
 - ・但し、決勝戦のみタイムゲームを採用しない。
- ③コールドゲーム
 - ・4回均等回以降7点差。降雨・日没の場合、4回均等回以降の得点差。4回均等回以前に試合続行不可能な場合は、特別継続試合を行う。尚、コールドゲームは決勝戦でも適用する。
- ④特別延長戦(タイブレーク)
 - ・6回終了時または1時間20分を超えたイニング終了時に同点の場合は、特別延長戦を行う。
 - ・無死満塁の状態とする。
 - ・打順は継続打順とし、前回最終打者を一塁走者、二、三塁走者は順次前の打者とする。
 - ・最大1イニング行い、勝敗が決まらなければ試合終了時に出場していたメンバー9人で抽選を行う。
 - ・通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。



大会規則 TOURNAMENT RULES



⑤コーティシーランナー(臨時代走)

・打者走者、走者が負傷などで治療が長引く場合は、球審は相手チームに伝え、打順の前位者(投手は除く)を臨時代走として試合を進行させる。

⑥投手の投球回数制限

・投手のトーナメントピッチリミットを適応する。

・1日の投球リミットを70球とする。

(投球リミットに達した場合、該当打者が終了後に降板する)

・インコース高めには絶対ウエストボールを投じない。もし、投球がそれで頭部に当たったとき審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。

・投手が他の選手と交代してベンチに下がった場合は、再び投手として戻ることはできない。但し、リエントリーを使って野手に戻ることはできる。

・投手から野手へ守備交代した場合、その選手は再び投手として戻ることができる。

その後、野手になることもできる。

・投手は、一試合で一度だけ、再登板できる。

・申告敬遠を導入する。申告敬遠に関しては監督が申告する。この場合、実際に投手が投じた投球のみ投球数にカウントする。

⑦リエントリー

・先発9名に限り、一度交代してから再び一度だけ試合に戻ることができる。

・選手は元の打順に戻る。複数の交代選手が使われる場合でも、交代した先発選手の打順を変更することのないように注意をすること。

⑧監督またはコーチが、投手のところへ行く回数の制限

・監督またはコーチが、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。

※交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。なお、他の守備についても、同一イニングに再び投手に戻れる。尚、監督またはコーチが投手のところへ行く回数は1試合3回までとする。但し投手交代時はカウントしない。

⑨守備タイム・攻撃タイムの回数制限

・守備タイム・攻撃タイムともに1試合3回までとする。

⑩審判に対する規則解釈の確認

・監督に限り確認行為を認める。

【 審判員 】

①審判服を着用すること。尚、審判帽子・審判服については、各連盟・地域所定のもので可とする。

②試合を主宰するにあたり、私情を交えることなく、規則を厳格に守らせる責任がある。

【その他】

①勝ちあがった場合、次の試合が棄権となるチームの取り扱い

・雨天順延等により、当該試合に勝利しても次の試合に参加できないチームは、当該試合の当日朝までに大会本部へその旨を申し出る事。その場合、当該試合は親善試合として行い、大会記録は申し出たチームの棄権と同様とする。

②注意事項

・ユニフォームは正しく着る事。

・応援等はメガホンの試用にとどめ、過度の応援は禁止する。

・試合中における選手または審判員に対する野次や威嚇するような行為は禁止する。違反したときは、審判員または運営委員が退場させることもある。

・グラウンドに唾を吐くことや、その他グラウンドマナーに反する行為や言動は禁止する。